



地域医会だより

県央皮膚科医の会

令和元年度は県央皮膚科医の会の講演会を1回と、県央地域の中の大和市皮膚科医会の講演会を1回開催いたしました。

●第12回県央皮膚科医の会

日 時：令和元年10月3日（木）

会 場：レンブラントホテル海老名

テーマ：アトピー性皮膚炎診断のポイント

—難治性病変の治療と対策—

講 師：京都府立医科大学大学院医学研究科皮膚科学

峠岡理沙先生



●第15回大和市皮膚科医会

日 時：令和元年7月6日（土）

会 場：小田急ホテルセンチュリー相模大野

テーマ：乾癬治療のup to date 外用から最新のbio治療まで

講 師：聖路加国際病院皮膚科部長 新井 達先生

（文責：矢口 厚）



地域医会だより

横浜市皮膚科医会

【2019年度の事業報告】

1. 例会について

●第152回例会

日 時：2019年4月6日（土）

会 場：関内新井ホール

共 催：鳥居薬品株式会社、日本イーライリリー株式会社

教育講演：病態に基づいたアトピー性皮膚炎の治療戦略

講 師：横浜市立大学大学院医学研究科環境免疫病態皮膚科学准教授 猪又直子先生

病院紹介：国立病院機構横浜医療センター 上田喬士先生

特別講演：乾癬性関節炎診療 ～膠原病内科の立場からのミニアドバイス～

講 師：聖路加国際病院リウマチ膠原病センター医長 岸本暢将先生

参加者：53名

●第153回例会

日 時：2019年7月7日（日）県皮膚科医会と合同

内容は省略。

●第154回例会

日 時：2019年10月17日（木）

会 場：関内新井ホール

共 催：ポーラファルマ株式会社

特別講演1：皮膚科医が知っておくべきアンチ・ドーピングについて

講 師：国立スポーツ科学センター九段坂病院 津田淳子先生

病院紹介：済生会横浜市南部病院 松倉節子先生

特別講演2：「かたち」から考える皮膚科学：細胞のかたちから皮疹のかたちまで

講 師：慶應義塾大学医学部皮膚科准教授 久保亮治先生

参加者：61名

2. 市民公開講座

2020年3月15日に開催する予定で準備を進めていたが、社会情勢を鑑み中止とした。

3. 医師会関連イベント

●ラジオ日本「みんなの健康ラジオ」

①日 時：2019年8月22日（木）、29日（木）放送

テーマ：水虫の話

担 当：畑 康樹先生

②日 時：2020年3月19日（木）、26日（木）放送

テーマ：アレルギーについて

担 当：山川有子先生

●横浜市医師会学校医部会総会・研修会

日 時：2019年10月30日（水）

会 場：横浜ロイヤルパークホテル 70階「オーロラ／レインボー」

テーマ：アトピー性皮膚炎の管理とスキンケアの重要性

講 師：東京慈恵会医科大学皮膚科主任教授 朝比奈昭彦先生

参加者：75名

●第27回横浜臨床医学会学術集談会

日 時：2019年12月7日（土）

会 場：崎陽軒本店

テーマ：経口血糖降下剤DPP-4阻害薬によるBP

講 師：河原由恵先生

参加者：108名

●令和元年度がんに関する医師研修事業

第153回例会（神皮との共催）で聖マリアンナ医科大学皮膚科学・門野岳史先生が行った「悪性黒色腫 Up to Date」のご講演抄録を提出。

4. 皮膚科医会共催講演会

●蕁麻疹学術講演会 ―改訂版蕁麻疹診療ガイドライン 蕁麻疹コントロールテスト（UCT）を含めて―

日 時：2019年9月25日（水）

会 場：横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ

共 催：ノバルティスファーマ株式会社

講演1：開業医でできる蕁麻疹治療のノウハウ

講 師：野村有子先生

講演2：蕁麻疹診療を見える化するためのアプローチ ～蕁麻疹診療ガイドラインの活用と蕁麻疹研究の最前線～

講 師：神戸大学皮膚科 福永 淳先生

参加者：57名

●日本皮膚免疫アレルギー学会、サノフィ株式会社主催市民公開講座

テーマ：アトピー性皮膚炎の改善と悪化の秘密 ～まずは自分の状態を知ろう～

日 時：2019年12月1日（日）

会 場：TKPガーデンシティ横浜 PREMIUMみなとみらい

後援として相談医を依頼されて派遣。

医師による相談コーナー：浅井俊弥先生、川口博史先生、高橋泰英、堀内義仁先生、山川有子先生、渡邊 憲先生

参加者：44組

塗り方コーナー：高橋さなみ先生、馬場直子先生

参加者：75名

（文責：高橋泰英）



地域医会だより

鎌倉市医師会皮膚科部会

●第11回例会・講演会（神奈川県皮膚科医会第161回例会と合同）

日 時：令和元年12月8日（日）

会 場：関内新井ホール

共 催：佐藤製薬株式会社

内容は省略。

令和2年3月11日（水）に第12回例会・講演会を開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止、秋以降に延期しています。

（文責：原 尚道）



地域医会だより

藤沢市皮膚科医会

例会

①日 時：2019年7月24日（水）19：30～

会 場：湘南クリスタルホテル5階「ボーナス・チャンス」

テーマ：ファーマコゲノミクスによる薬疹回避 ～現状と将来展望～

講 師：昭和大学医学部皮膚科学講座主任教授 末木博彦先生

共 催：田辺三菱製薬株式会社

②日 時：2019年11月13日（水）19：30～

会 場：藤沢市商工会館ミナパーク504会議室

テーマ：目でみる、皮膚からの漢方

講 師：よしき皮膚科クリニック銀座院長 吉木伸子先生

共 催：株式会社ツムラ

③日 時：2020年3月11日（水）19：30～

会 場：藤沢市商工会館ミナパーク5階

講演1：当院におけるアトピー性皮膚炎の治療 ～デュピルマブの一例報告～

講 師：すが皮ふ科院長 菅 千束先生

講演2：開業医のアトピー性皮膚炎治療戦略 ～デュピクセント導入のポイント～

講 師：皮膚のクリニック人形町院長 上出良一先生

共 催：サノフィ株式会社

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

（文責：小林誠一郎）



地域医会だより

川崎市皮膚科医会

●第17回川崎市皮膚科医会定時総会・第26回川崎市皮膚科医会例会学術講演会

令和元年10月2日（水）にホテル精養軒（武蔵小杉）にて、第17回川崎市皮膚科医会定時総会・第26回川崎市皮膚科医会例会学術講演会を開催しました。

総会は井上奈津彦会長の挨拶の後、石橋正史先生（日本鋼管病院皮膚科部長）が議長として選出され、第1号議案「平成30年度会務報告に関する件」以降、第5号議案「役員人事に関する件」まで円滑に承認され無事終了しました。

講演会は下記の要領で開催しました。

第26回川崎市皮膚科医会例会（学術講演会）

特別講演

座長：井上医院院長 井上奈津彦先生

テーマ：アトピー性皮膚炎 ～ UP to DATE

講師：東京慈恵会医科大学皮膚科教授 朝比奈昭彦先生

アトピー性皮膚炎の病態から治療までとてもわかり易くご講演していただきました。

●川崎市市民公開講座

毎年「皮膚の日」の行事として、11月に市民公開講座と市民向け「皮膚の健康相談」を行っていましたが、神奈川県皮膚科医会の行事と重なるため今年度は延期とし、3月に開催することとしました。今年度は3月15日（日）に川崎市総合福祉センター（エポック中原）で乾癬について市民公開講座を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となりました。

（文責：渡部秀憲）



地域医会だより

三浦半島皮膚科懇話会 横須賀市医師会皮膚科部会

新型コロナウイルス感染拡大に伴う自粛で例会中止のため、原稿はありません。

（文責：金丸哲山）



地域医会だより

小田原皮膚科医会

令和元年度は学術講演会を下記の通り開催いたしました。

【第666回小田原医師会・足柄上医師会合同学術講演会】

日 時：令和元年9月18日（水）

会 場：おだわら総合医療福祉会館

テーマ：糖尿病・透析患者の皮膚潰瘍を避け！ 早期発見早期治療のコツ

講 師：下北沢病院理事長 久道勝也先生

座 長：クローバー皮膚科クリニック 相川洋介先生

共 催：マルホ株式会社

参加者：25名

足趾の血行障害は、①第Ⅰ趾背側が無毛 ②皮膚に光沢がある ③あやしい潮紅・発赤があるとき、下肢の神経障害は、左右第Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ趾を触り（タッチテスト）、6ヶ所中2ヶ所以上の間違いがあったときに疑うなど、日常診療に大変役立つお話をさせていただきました。

今年度（令和2年）の学術講演会は、9月10日（木）に、東北大学大学院医学系研究科皮膚科学准教授の山崎研志先生をお招きし、「赤ら顔を診たら……」（仮題）といったテーマでご講演していただく予定になっております。

（文責：相川洋介）



地域医会だより

茅ヶ崎医師会皮膚科部会

【講演会】

日 時：令和元年12月2日（月）

会 場：茅ヶ崎医師会館3階大会議場

テーマ：アレルギー性疾患と当院の最近の診療内容について

講 師：茅ヶ崎市立病院皮膚科医長 種子島智彦先生

（文責：眞鍋泰明）

平塚市医師会皮膚科部会

【第81回例会】

日 時：令和元年5月22日（水）

会 場：グランドホテル神奈中平塚

テ ー マ：带状疱疹診療の現在と未来について

総合司会：平塚市民病院皮膚科医長 栗原佑一先生

出席者：38名

製品紹介：抗ヘルペスウイルス剤「アメナリーフ錠200mg」マルホ株式会社

特別講演：带状疱疹診療の現在そして未来

座 長：栗原誠一先生

講 師：東京女子医科大学名誉教授 川島 眞先生

要 旨：

带状疱疹は水痘・带状疱疹ウイルス（VZV）による感染症であるが、VZVによる初感染である水痘が治癒後、VZVは脊髄後根神経節に潜伏感染し、VZVに対する免疫力の低下により、回帰発症の形で潜伏していた神経節の支配領域に疼痛の前駆症状を伴い、紅斑、丘疹さらには水疱、膿疱を形成する疾患である。疼痛の前駆症状の段階での診断は困難であり、皮疹の出現を待って診断、治療を行うのが原則である。小児例、軽症例では皮疹が生じても診断が困難なこともあるが、イムノクロマト法を用いた迅速診断キット、デルマクイックはそのような場合に有用である。治療には核酸アナログからなる抗ウイルス薬が使用されてきたが、全く新しい作用機序であるヘリカーゼ・プライマーゼ阻害薬、アメナリーフが登場した。ウイルス合成の開始時点に作用するというメカニズムを有し、腎機能低下を考慮した投与量の調整が不要であるという利点がある。一方で、これまで水痘の予防に用いられていた生ワクチンが50歳以上の带状疱疹予防にも使用することができるようになった。水痘ワクチンの接種により水痘が減少し、水痘罹患者との接触によるブースター効果を生じる機会が減り、VZVに対する特異的細胞性免疫が賦活化される機会も減少し、带状疱疹は増加傾向にあるが、今後带状疱疹予防ワクチンとしての接種が増えれば、带状疱疹患者の減少が予測される。带状疱疹診療は治療から予防へと変遷していくかと思われる。

症例報告：眼症状と迅速検査で診断できた带状疱疹

講 師：東京都済生会中央病院皮膚科 川島裕平先生

講 演：治子コレクションX：皮膚病変と内臓疾患（1）

講 師：関東中央病院皮膚科特別顧問 日野治子先生

共 催：平塚市医師会皮膚科部会、マルホ株式会社

【第82回例会】

日 時：令和元年9月25日（水）18：50～20：30

会 場：グランドホテル神奈中平塚

テ ー マ：蕁麻疹・アレルギー

総合司会：東海大学医学部附属大磯病院皮膚科講師 田宮紫穂先生

出席者：43名

情報提供：アレルギー疾患治療剤「ビラノア錠20mg」大鵬薬品工業株式会社

特別講演：日常診療で診る！ 蕁麻疹・アレルギー最新情報

講 師：島根大学医学部皮膚科学教室講師 千貫祐子先生

要 旨：

2018年、日本皮膚科学会の蕁麻疹診療ガイドラインが改訂され、蕁麻疹は4グループ16病型に分類された。本講演ではこのうち、致命的となりうるアレルギー性の蕁麻疹、特に食物アレルギーに関する最新情報を紹介した。近年の食物アレルギー診療の考え方に大きな影響を与えた加水分解コムギ含有石鹼の使用による小麦アレルギー発症の事例から、我々臨床医は実に多くのことを学んだ。食物アレルギーの成立における経皮感作の重要性、また経皮感作から始まる食物アレルギーは感作経路を防ぐことができれば治癒しうることなど、既存の概念を打ち破る経験が多々あった。さらに、花粉-食物アレルギー症候群や、マダニ咬傷から始まる糖鎖 α -Galが原因の獣肉アレルギー、ネコ感作から始まるpork-cat syndromeなど、食物アレルギーの多彩な感作経路や交差反応を紹介した。最後に、蕁麻疹診療における非鎮静性第2世代抗ヒスタミン薬の選択方法や、蕁麻疹のスコアリングシステムの一つであるUCT (Urticaria Control Test) も紹介した。

講演Ⅰ：遺伝性血管性浮腫の1例

講 師：東海大学医学部付属大磯病院皮膚科講師 田宮紫穂先生

講演Ⅱ：治子コレクションXI 皮膚病変と内臓疾患(2)

講 師：関東中央病院皮膚科特別顧問 日野治子先生

共 催：平塚市医師会皮膚科部会、大鵬薬品工業株式会社

【第83回例会】

日 時：令和2年1月29日(水) 18:50～20:30

会 場：グランドホテル神奈中 平塚

総合司会：平塚共済病院皮膚科 竹林英理子

出席者：35名

情報提供：ルパフィン錠について 田辺三菱製薬株式会社

特別講演：ヘルペスウイルス感染症の臨床像と病態 ～アトピー性皮膚炎の治療を含めて

講 師：福岡大学医学部皮膚科学教授 今福信一先生

要 旨：

単純ヘルペスは単純ヘルペスウイルス(HSV)の感染によるありふれた疾患であるが、口唇や性器に病変をつくる疾患はいろいろあり、鑑別が重要になる。臨床像では中心臍窩を伴う水疱が口唇や性器の粘膜周囲の乾いた皮膚にできる急性の病変が特徴で、鑑別として固定薬疹、手足口病、口角炎、ざ瘡などが挙げられる。再発性口唇ヘルペスが軽症の定型的な病変をつくる一方で、HSVの初感染は比較的重症の病変をつくる。アトピー性皮膚炎には角層のバリア異常を生じるため、単純ヘルペスが合併しやすく、初感染が重症化する場合がある(カボジ水痘様発疹症, KVE)。KVEは皮膚炎のアトピー性皮膚炎が制御不良の患者に生じやすく、日常的な抗炎症、バリアを補完する外用治療、および痒みの治療が重要となる。一方、帯状疱疹は水痘帯状疱疹ウイルス(VZV)の内因性の再帰感染である。小児期の自然水痘に罹患した成人に片側性の疼痛を伴う紅斑、水疱としてみられる。帯状疱疹は全人口あたりおよそ5人/1,000人年で発症するが、免疫不全者、高齢者でその頻度は増加する。帯状疱疹はその発症予防ワクチンが開発されており、現在の日本で使用の生ワクチンでは発症頻度が半分、重症度は3分の1に減少する。また帯状疱疹には新たな迅速診断キット、新たな内服薬も登場し、正確な診断と早期治療に役立つと思われる。

講演Ⅰ：非典型的な臨床所見を呈したヘルペス感染症の1例

講 師：平塚共済病院皮膚科 赤嶺智美先生

講演Ⅱ：治子コレクションXII

講師：関東中央病院皮膚科特別顧問 日野治子先生
共催：平塚市医師会皮膚科部会、田辺三菱製薬株式会社

(文責：竹林英理子)

○ ○ ○ ○ ○
地域医会だより

厚木市皮膚科医会

●例会

例年通りに前期後期2回の例会を下記の通り行いました。

1. 第46回例会

日時：令和元年5月30日（木）
会場：レンブラントホテル厚木
テーマ：日常診療で活用したいヘルペス疾患の新たな治療戦略
講師：佐曾利ひふ科医院院長 小野文武先生

2. 第47回例会

日時：令和元年11月14日（木）
会場：レンブラントホテル厚木
テーマ：アトピー性皮膚炎（AD）の病態と治療 —新規治療薬を含めて—
講師：日本医科大学付属病院皮膚粘膜病態学分野大学院教授 佐伯秀久先生
（JAK阻害薬、PDE4、H₄阻害薬なども含めて）アトピー性皮膚炎のみならず、円形脱毛症、尋常性白斑にも期待ができるようです。

●厚木市医療フェスティバル

日時：令和元年11月9日（土）
毎年秋に市民に対して種々の取り組みをしています。様々な検査機器による無料検査、皮膚科でもダーモスコピーなども使用したりしています。

●厚木愛甲地区専門校医（相談医）事業

皮膚科、産婦人科、整形外科、精神科の専門4科で学校保健に対応していこうとする会合です。細々とではありますがFAX、メール相談を今年度も行いました。

ただ全体にCOVID-19問題で会合自粛のため専門校医事業の今年度最終会合が中止となり、医療フェスティバルも次年度は見送りのようです。

(文責：小幡秀一)



地域医会だより

丹沢皮膚の会

●第43回丹沢皮膚の会学術講演会

特別講演

日 時：令和2年2月26日（水）

会 場：伊勢原シティプラザ

座 長：山本皮膚科医院 山本 修先生

テーマ：ヘルペス治療のセカンドエフォート ～抗ウイルス薬の新しい使い方とは？～

講 師：医療法人すばる会菅井皮膚科パークサイドクリニック 菅井順一先生

帯状疱疹において、ファムビルはバルトレックスと比べて帯状疱疹後神経痛になりにくいこと、アメナリーフとファムビルは帯状疱疹後神経痛の割合が同じくらいであること、アメナリーフは内服後皮疹が早く軽快すること、また、帯状疱疹で血小板減少が起こることなどをわかりやくご講演いただきました。

（文責：加藤正幸）



地域医会だより

相模原市医師会皮膚泌尿器科医会

2019年度の学術講演会を下記の通り開催いたしました。

【第217回学術講演会】

日 時：2019年4月11日（木）19：30～

会 場：小田急ホテルセンチュリー相模大野

テーマ：日常診療で膠原病を見出すポイント

講 師：聖路加国際病院皮膚科部長 新井 達先生

皮膚科が膠原病診療にかかわることは皮膚科医の診断能力向上に繋がるため、極めて重要である。本講演では膠原病を見出すポイントとなる手の所見（代表例：爪囲紅斑→SLEや皮膚筋炎、爪上皮延長と爪郭部の点状出血→強皮症と皮膚筋炎、凍瘡→強皮症など）、耳の所見（凍瘡や円板状エリテマトーデスなど）、口腔粘膜症状（難治性口唇炎→Sjögren症候群など）、頭部の所見（紅斑を伴う円形脱毛症→SLE、頭部の難治性掻痒性皮疹→皮膚筋炎）などを提示しながら、臨床検査所見を含めて、日常診療で膠原病を見出すポイントについて述べた。

情報交換会：

共 催：相模原市医師会皮膚泌尿器科医会、科研製薬株式会社

【第218回学術講演会】

日 時：2019年6月20日（木）19：30～

会 場：ベストウエスタン レンブラントホテル東京町田

テーマ：帯状疱疹後神経痛に対する新しい治療

講 師：独立行政法人国立病院機構相模原病院皮膚科医長 大松華子先生

帯状疱疹では、皮疹出現前から主に①侵害受容性疼痛が、皮疹治癒後には主に②神経障害性疼痛が出現する。①に対しては、高用量のアセトアミノフェンによる治療が比較的安全性が高く、消化器・腎障害の危険性が少なくアセトアミノフェンで効果不十分な場合にNSAIDの使用もしくは併用を行い、両薬剤で効果不十分な場合は弱オピオイドを使用する。②に対してはCa²⁺チャネル $\alpha_2\delta$ リガンドが有効なことが多い。同剤で効果不十分な場合は三環系抗うつ薬、ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出物の併用を考慮し、それでも効果不十分な場合は弱オピオイドを追加する。疼痛の種類により効果がある薬剤は異なるので、疼痛の種類を見極めることは重要である。

情報交換会：

共 催：相模原市医師会皮膚泌尿器科医会、第一三共株式会社

【第219回学術講演会】

日 時：2019年11月7日（木）19：30～

会 場：小田急ホテルセンチュリー相模大野

テーマ：蕁麻疹診療ガイドラインの改訂ポイント

講 師：関西医科大学附属病院皮膚科准教授アレルギーセンター副センター長 神戸直智先生

蕁麻疹治療の基本は、ルパタジンのように、非鎮静性の抗ヒスタミン薬の内服が第一選択であることに変わりはない。加えて2018年のガイドラインの改定で薬物治療手順が微修正され、STEP 2として列記されていた薬物の中でH2拮抗薬と抗ロイコトリエン薬の重みが増した。また安易な内服副腎皮質ステロイド薬の使用についての警鐘として、「1ヶ月以上減量または中止の目途が立たない場合は他の治療への変更を検討する」という注意書きが加えられた。また、IgEに対する中和抗体であるオマリズマブがSTEP 3として治療手順に登場し、実際に診療現場において効果を上げている。

情報交換会：

共 催：相模原市医師会皮膚泌尿器科医会、田辺三菱製薬株式会社

【第220回学術講演会】

日 時：2020年2月13日（木）19：30～

会 場：ホテルラポール千寿閣

テーマ：帯状疱疹・単純疱疹の治療戦略

講 師：聖隷三方原病院院長補佐皮膚科部長 白濱茂穂先生

水痘ワクチン接種後の水痘（ブレイクスルー水痘）、新しい水痘ワクチン（組換えサブユニットワクチン）、帯状疱疹に対するアメナメビルの薬理作用、単純疱疹に対する短期間投与Patient Initiated Therapy (PIT)について解説する。

情報交換会：

共 催：相模原市医師会皮膚泌尿器科医会、マルホ株式会社

（文責：高須 博）